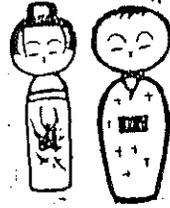


# 勝林寺々報



光雲無礙如虚空

一切の有碍にさわりなし

光沢かむらぬものぞなき

難思議を帰命せよ

このうたは阿彌陀さまのお光りの「無碍」の徳についてたゞえられております。

「無碍」とか「有碍」との「碍・礙」はどちらも「さわり、じやま、障害」のことです。

ですから「光雲無礙如虚空」ということばを親鸞さまは「ひかり、くものごとくして、さわりなきこと虚空のごとし」とふりがな(左訓)をつけていってください。

すなわち、如来さまのおひかりは、あたかも大空を行く雲のように、なにもものにもさざりられず何ものにもじやまされず、いつでもどこでもはたらいてくださる光りなのだよと教えてくださっているのです。

たとえどんなじやま障害があつても、如来さまの光りは、そんなものをこそつゞみ照してくださるのです。

「一切の有碍」というのは如来さまのおはたらきのじやまをするものこととしてしよう。親鸞さまはこのことばの横に「ヨロス、コノヨノコトナリ」とふりがなをつけておられます。それは、如来さまのおはたらきを邪魔しているものは、いまこの世にいます私ではないのか」と自分自身をなげかれています。

如来さまの真実を背をむけ、如来さまのよび声に耳をふさぎ、如来さまの光のなかを逃げかくれている私。  
しかし如来さまの光りは、むしろそのような者をこそと、さわりのまをまるごと光りのなかに摂め取ってくださいさるのです。

光雲無礙如虚空

一切の有碍にさわりなし。  
だからいま如来さまのお光りを「無碍光」とおたたえさるのです。

それからこの如来さまのお光りを「無碍光」と名づけるのには、いま一つのわけがあります。

それは、この如来さまのお光りのなかに摂取された人は、如来さまのいのちのなかのくらしだから、その日人生のなか、なにひとつおそれおびえるようなものはない。邪魔も障害もはねのけて堂々と生き死にする力がめぐまれるのです。

親鸞さまはこのことを「念仏者は、無碍の一道なり」とおつしやつていらるのです。

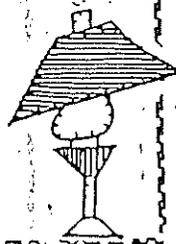
そこで親鸞さまはこのご和讃の「光沢」という字の左横にも「ヒカリニアタルユエニ、智慧ノイデクルナリ」とふりがなをつけていらつしやいます。

おそれや不安からいへんな神やほとけを願ひ折るようなことはありません。如来の智慧の光に照らされてものの真実が見えてきました。如来のいのちにつままれて邪魔も不安もありません。堂々とした輝かしい人生がうまれてくるのです。

ひかりが、石にあたれば、石にかがやきがでます。  
雨が、石にふりそそげば、石にうるおいがでます。

如来のひかり、法の雨にあたつた私のくらしのうえにも、凡夫のくらしでありながら、どことはない智慧のうるおいがでてるのです。  
親鸞さまはこの私の生きていくくらしのなかににじみでてくるうるおいのいろを「現生十種の利益」ということで示していただいています。

来月の「現生十種の利益」ということと「難思議に帰命せよ」ということばのころをうかがつてみようと思います。



講師 駒井道生師

七月八日 夜八時

七月九日 昼二時

「永代経」という法要は、私たちの祖先、ことに顔も名もおぼえのない遠い方々までさかのぼつて(永代)そのことを思いみることを縁として、私たちがどこにいてもいつでも(永代)よりどころとなるもの(ストラ・経)を得させていただこうと、つとめさせていただく聞法の会であります。

ことに今日生きる根拠のうしなはれていくとき、あらためてこのところを聞きなおしてみたいものだと思います。  
つれだつてお参りください。  
(下段ご参照ください)

## 内 案 経 代 永

葬儀

六月十七日

正法寺

森友佐一郎様

六月二十五日

坪口

関岡久太郎様

## 七月のこよみ

- 一日 「念仏奉仕団」
- 二日 「念仏奉仕団」・中央講師研修会
- 三日 兵庫教区和長副議長会
- 四日 高福寺永代経・玉井啓介氏宅百ヶ日
- 五日 安室北和社法会研修会(広島)
- 六日 出石組仏教連盟総会(正福寺)
- 七日 勝林寺永代経
- 八日 勝林寺永代経・勝林寺仏教連盟・正福寺永代経
- 九日 正福寺永代経・本山伝道部研修会
- 十日 兵庫教区仏教連盟ブロック研修会(姫路本願寺)
- 十一日 夢前町光臨寺仏教連盟
- 十二日 岩上三善夫氏宅法事
- 十三日 「安産」(京都・本山)
- 十四日 洲本市真徳寺布教大会
- 十五日 同
- 十六日 兵庫教区仏教連盟丹波ブロック研修会(豊岡光行寺)
- 十七日 本山運動本部専門部会(本山)
- 十八日 出石組「連盟」(但馬町専修寺)



念仏奉仕団  
七月一日二日、出石組仏教連盟主催第二十回「念仏奉仕団」約百四十名が本山(お参りします。勝林寺からは八かたの遺骨をお供をする遺族を含め十四人が参加します。  
一日はご本山の清掃奉仕、二日には大谷本願で納骨式をいたします。

永代経バスが出る

勝林寺永代経七月八日夜には送迎のマイクロバス(宮嶋千秋氏奉仕)が出ます。足の悪い方などもバスを利用してまいりください。

バスの発時刻  
栗尾夕七時 正法寺七時十分 ↓ 小谷七時十五分 ↓ 出合七時二十分 ↓ 市場七時二十五分 ↓ 矢根七時三十分。 坪口 七時四十分。

私のお念仏

宮嶋 千秋



うつとうしい梅雨の季節です。いま、水の有難さを感じると覚る人は数少ないと思います。なんでも余りかえるほどあると、有難いどころかなくことになり、また実際ことによると不幸をまねくことになることもあります。世界のどこかでは人々の生活がなりたないほど水のないところもあるというのに、私たちが、雨のしとしとふるのをただなげいていては勿体ないことだと思つて居るのです。現代はだいたい物があふれるほどで、便利すぎるほどで、ぜいたくなくらしたと思つておられます。

「私は生かされている」ということを、よくお聴聞させていたのですが、私自身、生れ育ちそれからの生涯ずっと、おぞましい浅ましい因縁の種をまきつづけて、私のまわりにはそんな業因縁が無数にそだつて、私をがんじがらめに縛りつけてしまつて居るように思います。いま私は、ほかならぬ私のまいた業因縁のしがらみのなかに居る私でございます。ちょうどそれは、大切にしている草や木が、まわりの雑草にとりかこまれて、その茂みにだんだんまといつかれて、そのまま放つておくとやがて雑草に亡ぼされてしまうのとよく似ています。阿彌陀さまは私たちがのように放つておいたりはないと思います。その雑草の茂みの中の身うごきならない私を照しました私のなかに入りこんでくださり、生きる智慧の光となつて、はたらくいのちとなつて、私をおまもりくださつて居るのです。私が少々善行を積んでも、かえすことのできない大きな恩のなかにくらさせていだいて居るのです。生かされている私なのだなあと、思つて居るのです。勿体ないことだなあとお念仏がまた出てくださ

るのです。

お正信偈さまのなかに『報土因果願誓願 往還廻向由他力 正定之因唯信心』(如来のくにをしあげて居るのはほかならぬ救わねばおかぬとの如来の誓いと願いとである。したがつて私が如来のくにへ生れかわるのも住まわせていただくのも、それはたゞ如来の本願のはたらきなのである。であるから私が如来のいのちのなかに生れさせていだいたねは、たゞたゞ如来の親心にめざめる信心一つなのである)とお導きになつておられます。聖人さまは大昔に、この如来さまのお願いはたらきをこのようにお示しくくださつて居るのです。

雑草のなかにがんにがらめな植木を手入れするように、いやいやそんなちつぽけなものではなくて無限に大きなお力によつて、悪因縁の茂みのなかにしか生きられない私をまもりつづけてくださつて、私がお念仏を申しあげるところか阿彌陀さまからお念仏を聞かせてくださるよう思っています。まわりのお世話してくださる方みな南無阿彌陀仏さまのお力とお念仏申しあげるのでございます。南無阿彌陀仏

業因縁の 繫縛のなかの 私はそのまゝ弥陀のみ手のうちなる。

昭和六十年 経常費納入お願い

いづれ近日中に代議員様を通じてお願いいたしますが、今年度第一回代議員会で決議いただきました通り、今年度経常費割金を七月八日永代経法要までにご集納いただきますようお願い申し上げます。

勝林寺仏教婦人会 昭和六十年 総会

子育て孫そだてということがむずかしい時代です。そのなかでとくに 母親の生きかたとしよりのありかたが問われなければなりません。私の生きかたを仏法に聞いてみましょう。

日時 七月九日 前九時半開会

- 礼拝
- 新入会員献花(「真宗宗歌」)
- おつとめ(「らいはいのうた」)
- 会長あいさつ
- ご法話(住職)
- 会務・会計報告
- 事業計画説明

講話 駒井道生師

※新しくご門徒へ嫁いでこられた方をおかあ様かだれかが連れてお参りください。必ず車服で。当日会からお祝いの記念品を贈ります。

- ※参詣員様おねがい
- ① 総会出席者数を七月五日までにご連絡ください。
- ② お嫁さんの氏名・世帯主・出席有無を七月五日迄にご報告ください。
- ③ 当日の会費(昼食代)五百円です。

仏婦連盟 研修会

日時 七月二十四日 時十時半より

会場 豊岡 光行寺  
改めてご案内しますが多数ご参加ください。

行かんとするとき 一歩退いて 思え。 為さんとするとき 合葬して 憶え

本堂格天井ほゞ完成



二年ごし検討をうけてようやく五月十九日着工の本堂内・外陣の格天井工事は、あと装飾金具打ちだけを残してほゞ完成いたしました。内陣は明るい色彩の天井になつてはれやかさを増し、下陣はご本山と勝林寺の紋を全面に配していつそうおちついた荘重さが出て参りました。ご門徒各位のご協力にあらためて感謝申し上げます。

出石仏婦連盟(総会) 研修会開く

出石組仏婦連盟の総会が六月二十三日勝林寺を会場に開かれました。約二百人の集會者のなかには他組の方あるいは京都教区からの見学参拝のかたがたもありました。ご本山の伝道院部長の西脇正文先生の講話を中心に終日充実した研修会でした。この会の準備や運営には勝林寺仏婦の役員が大変な力添えをいただきました。お礼を申しあげます。

清掃奉仕ありがとうございました

六月二十三日の仏婦連盟総会を前にして永代経の準備もかねて「清掃奉仕作業」をしていただきました。工事あとの本堂や境内地、どうなることかと案じていたのに二十一日当日仏壯仏婦の方々二十四名、仏具のおみがきから畑の草とりまできれいに仕上げてくださいました。大変なご苦労でした。ご好意に深甚の謝意を表します。

